

## 第 19 回 防災対策指針検討会 議事録

1.開催日時：平成 21 年 9 月 29 日（火）14:00～17:30

2.開催場所：日本電気協会 4 階 A 会議室

3.参加者（順不同，敬称略）

委員：岩崎主査(関西電力),沼田(日本原子力発電),森(中部電力),山本(日本原子力研究開発機構)  
(計 4 名)

代理：磯野(四国電力・高橋),森谷(東京電力・海野)  
(計 2 名)

欠席：小笠原(東北電力),小野寺(北海道電力),木庭(九州電力),田中(中国電力),中田(北陸電力)  
(計 5 名)

オブザーバ：山崎(関西電力)  
(計 1 名)

事務局：糸田川(日本電気協会)  
(計 1 名)

4.配付資料

資料 19-1 第 18 回防災対策指針検討会議事録(案)

資料 19-2 運転・保守分科会議事録(案)

資料 19-3 原子力規格委員会議事録(案)

資料 19-4 原子力防災対策について(概要)

資料 19-5 JEAG4102 改定案の骨子について(中間報告)

資料 19-6 JEAG4102 緊急時対策指針案(中間報告)

資料 19-7 JEAG4102 中間報告コメント取りまとめ表(ドラフト)

資料 19-8 JEAG4102 要求基準対比表(抜粋)

参考-1 防災対策指針検討会委員名簿

参考-2 IAEA の国際緊急時対応訓練における訓練評価

5.議事

(1) 議事次第・配布資料確認，定足数確認(代理出席承認)

事務局より，議事次第及び配布資料の確認後，全委員 11 名中，5 名欠席，6 名出席(うち代理 2 名)であり，決議に要する定足数(3 分の 2 以上=8 名以上)を満たしていないことから，本日は決議ができないことの報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より，資料 19-1 の前回議事録(案)については既に委員に送付済みで，コメントはなく，正式な議事録としてホームページに掲載することの説明があった。

(3) JEAG4102-20XX 原子力発電所の緊急時対策指針(案)(中間報告)に対する運転保守分科会等でのコメント対応

事務局より，資料 19-2 の運転・保守分科会議事録(案)のうち，本検討会に関連する箇所の説明が行われた。

- ・ 4 名の本検討会委員が承認された。(海野委員については，岩崎検討会主査から副主査に指名され，参考-1 の名簿に反映済み。)

- ・ JEAG4102 改定案の中間報告を実施。(出された意見の対応は本日検討。)

- ・ 次回の分科会開催は 1 月下旬～2 月上旬頃に予定。

また，資料 19-3 の原子力規格委員会議事録(案)のうち，本検討会に関連する箇所の説明が行われた。

- ・ JEAG4102 改定案の中間報告を実施。(出された意見の対応は本日検討。)

- ・ 次回委員会開催は 12 月 16 日，次々回は平成 22 年 3 月 15 日に予定。

これら上位の委員会の開催予定を踏まえ，JEAG4102 改定案の分科会への上程は 1 月下旬～2 月上旬頃，原子力規格委員会への上程は平成 22 年 3 月 15 日を目標とすることを確認した。

引き続き，主査より，資料 19-4～6 に基づき，JEAG4102 改定案の中間報告資料の概要説明があった後，資料 19-7 に基づき，中間報告時に出されたコメントとその対応案について説明が行われ，質疑応答を実施した。特に，防災訓練の評価に関しては，山本委員より，参考 2 に基づき，IAEA の国際緊急時対応訓練における訓練評価の実施状況について説明が行われた。

その結果，訓練評価の指標を解説に記載する文案については沼田委員が修正案を作成し主査に送付すること，また，原災法施行状況の反映を本文に記載する文案については磯野委員代理が修正案を作成し主査に送付することを確認した。

(主な質疑)

- ・ IAEA では広報担当官はメディアの報道を認識しておく必要があるのか。  
わが国でもオフサイトセンターの中では報道モニターで誤った報道がされていないか等をチェックしている。事業者の訓練では、そこまでの必要はないかもしれないが、欧州では誤った報道に対しては、即時訂正報道するというのが常識であり、そのための訓練である。メディア報道は風評被害など輸出入にもすぐ影響するので、神経質になっている。
- ・ 訓練評価の指標を入れるようにとの意見があるが、どのように定めるのか。  
PDCA の訓練実施プロセスの追記を考えている。
- ・ 指標を記載しないと、答にならない。スケジュール通りにできたとか、各班の連携がとれているかなどであれば、記載できるのではないか。  
評価というのは、訓練毎に決めるものであるので、一律にその指標を記載するのはそぐわないと考えている。
- ・ 視点的な内容であれば記載できると思う。現案の PDCA のように「シナリオの作成」などと具体的に記載してしますと、運用が大変ではないか。「きちんと通報ができていますか」程度でよいと思う。  
「通報連絡が適切に実施できているか」とか、「プレス発表の準備ができていますか」などを一覧表にして運用している事例もあるが、「評価基準を設定し、訓練を実施する。」のように記載する方法もあると思う。
- ・ 「訓練が総括的に機能しているか」、「コミュニケーションの状態はよいか」、「技術的な対応はよいか」、「広報はよいか」などの程度の指標であれば記載できるとは思うが、それ以上の具体的な内容は、訓練方法を固定化することにもなると思われる。  
どういう切り口で評価するという程度のことでよい。どういう視点で評価を加えるかを明示すればよい。「訓練の目的が達成されたか」、「コミュニケーションがどうであった」とか、「各班の連携がうまくいった」とか、そういうことである。
- ・ 訓練を標準化しない限り、評価指標などは定められない。  
訓練評価の基準を作るのは、困難であるのは理解できる。やはり例示程度でよいのかもしれない。  
「有効性の評価」の内容をより具体的に書く程度、例えば例示を追加することでもよいのではないか。「防災資機材が使用できる状態にあるか」程度であれば記載できる。
- ・ 沼田委員に記載案の検討をお願いしたい。  
了解。
- ・ 「原災法施行状況の反映は本文に記載すべき」との意見への対応だが、本文に反映できるのか。  
これまでは解説に記載することで了解されてきた経緯があるが、解説に記載されているのであれば、本文側にも何らかの内容は記載できると思われる。
- ・ 磯野委員代理に記載案の検討をお願いしたい。  
了解。

(4) JEAG4627-20XX 原子力発電所緊急時対策所の設計指針(案)等との整合性について

主査より、資料 19-8 に基づき、中越沖地震対策の反映として安全設計分科会で策定中の原子力発電所緊急時対策所の設計指針(JEAG4627-20XX)と JEAG4102 との整合性の確認及び、その他の原子力防災に関係する法令等の要求事項が JEAG4102 に適切に反映できているかどうかの確認を、資料表紙に記載の分担にて各委員が点検し、その結果を主査へ連絡するよう、依頼があった。

(主な質疑)

- ・ どのような方法で点検するのか。  
別に検討表があるので、それに基づいて点検結果を記入していただきたい。
6. その他
- ・ 本日の指針案及び分科会中間報告説明用パワーポイント資料についてのコメントがあれば、主査まで連絡することを確認した。
  - ・ 次回検討会は 11 月 26 日(木)、次々回は平成 22 年 1 月中旬～下旬に開催することを確認した。

以上